

馬場小室山遺跡フォーラム」第73回ワークショップ

【 原動力！パブリック・アーケオロジー2016 】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かわり」と未来への新たな挑戦

1. 【「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」のふりかえりと今後の展望】

★2004年12月26日に第1回「馬場小室山遺跡研究会」が、翌2005年1月30日には近隣住民参加の「小室山セミナー」(飯塚邦明さん主催)が、そして同年3月27日には第1回となるクリーンアップ大作戦が始まりました。続く6月にはパブリック・アーケオロジーを推進するために「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」の立ち上げに至り、毒島正明さんの提案により大田堯さんに冠としてご指導頂きました。気がつくとなつという間の10年！

1-1. 【馬場小室山遺跡の青空考古学教室】： 知識・経験・思考・領域別の学びのメニューを一揃い！

- (1) <基礎知識の入門編>縄文時代とはどういう時代か？
- (2) <考古知識の入門編>どうして縄文時代とわかるのか？
- (3) <遺跡における考古経験の初級編>馬場小室山遺跡にはどのような不思議がみられるのか？
【その1】縄文塚(縄文マウンドむら) ⇔ 縄文スリバチむら(荒海貝塚C地点、寺野東遺跡等)
【その2】縄文スリバチ広場(中央窪地)
【その3】縄文巨大地下ムロ(多世代の晩期大土壇)
【その4】謎のムロさま(粗製様式の人面文土器)
- (4) <地域文化における考古思考の中級編>馬場小室山遺跡の近くにも不思議な遺跡があるのか？
【縄文塚と縄文スリバチ広場】 氷川神社遺跡
【縄文沼と漆工芸、そして木杭道】 寿能泥炭層遺跡
【巨大スリバチ地形の縄文むら(縄文スリバチむら)】 前窪遺跡
- (5) <特殊専門考古領域の上級編>ほかにも人面文土器はあるのか？
【さいたま市には破片が1例のみ】 東北原遺跡

1-2. 【馬場小室山遺跡の課題研究】： 限界(知識・経験・思考・領域等)からの知的解放を目指します！

- (1)「ムロさま」の「限界領域」打破…晩期中葉以降、特に弥生中期に発達する広域人面ネットワーク研究
- (2)「オムちゃん」の限界知識」打破…中空土偶から容器形土偶という土偶の「台式」化への意義
- (3)「シオ(塩)もん」の「限界経験」打破…「製塩土器」形態の確立と晩期に普及する社会的背景の追及
- (4)「タマきみ(君)」の「限界思考」打破…ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「壺棺再葬墓」流通(上越周辺北信経由)の実態解明

1-3. 【今後の展望:環境と遺跡】：「遺跡の風景がある街づくり」の視点から馬場小室山遺跡を考える！

- ・第32次発掘調査地点(アイダ村)を百年後には馬場小室山遺跡専用の資料展示館にしましょう！
- そのためには、(1)第32次調査報告書の資料を活用してアイダ村の展示構成を策定しましょう。
- (2)パブリック・アーケオロジーによる学校教育と生涯教育への貢献を提案しましょう。

2. 【「山田湾まるごとスクール」のふりかえりと今後の新展開】:被災地と響き合う関係を構築するには？

2-1. 『「山田湾まるごとスクール」の歩み』(担当:五十嵐聡江/奥付:2016-8-1)を作成中！

- ・イベントやニュース記事、冊子、論文などこれまでの活動記録を纏めて編集集中。

2-2. 今後の新展開

- (1)「宮北会」(さいたま市に本部をおく、山田町北浜老人ホームを中心とした復興支援ボランティア団体)との交流 : 山田町支援の新たな方向性を学ぼう！
- (2)山田史談会との交流テーマと川端弘行コレクションの今後 : コラボレーションの可能性
- (3)大浦仮設住宅から高台の復興住宅への移転 : 記念すべきイベントへの対応
- (4)「山田湾文化」の研究 : 「地震考古学」(遺跡)から「防災・減災考古学」(プレート地域間相互関係)へ

八幡堂遺蹟と金附	新潟県	長野県北部	千葉県古鬼怒湾	茨城県古鬼怒湾	福島県浜通り	大船渡湾
遺蹟の年代構成	青田遺蹟	氷遺蹟	荒海貝塚	殿内遺蹟	作B遺蹟	長谷堂貝塚
大洞 A'(古)式	○	○	○	×	○	○
大洞 A'(中)式	×	×	×	×	×	×
大洞 A'(新)式	○	×	○	×	○	○
【弥生式前期】	×	○	○	○	○	○

×(典型例不明) ○(該期土器群の展開)

<表1> 日本列島「北米プレート」境界縁辺部における「大洞 A'式」大地震タイムラグ連動現象

3.【課題研究<「縄文塚」以後の時代を展望するシリーズ企画>】:

馬場小室山遺跡「第51号土壌」から展望する「壺棺再葬墓」の風習と交流

3-1.「ムロさま」を端緒とした人面イデオロギーの展開

- ・縄文時代晩期の人面表現は、土偶・顔面付土版以外に、馬場小室山遺跡では土偶付土器と人面文土器にも見られ、他の遺跡ではさらに注口付土器や波状口縁部に人面が付く人面付土器も見られます。

顔面は土偶系統と顔面付土版系統の二者となり、人面文土器は顔面付土版の系譜となります。

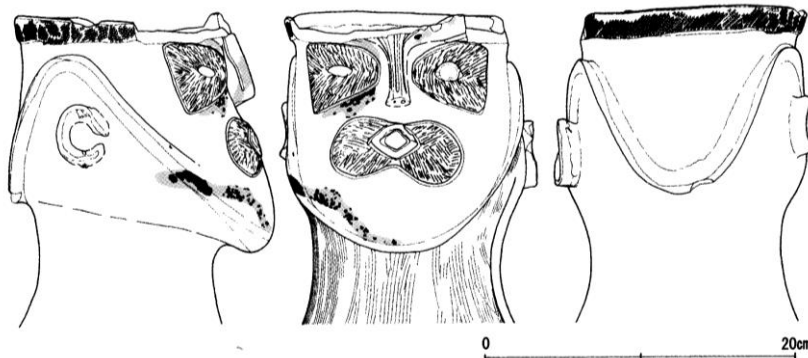
- ・弥生時代になると、中実土偶は脚部と頭部の顔面表現が省略され「台式土偶」となり、中空土偶は人体表現の五体の中で脚部が省略され、さらには土器棺として腕部も省略されるようになる。

＜中空土偶 ⇒ 容器形土偶＞

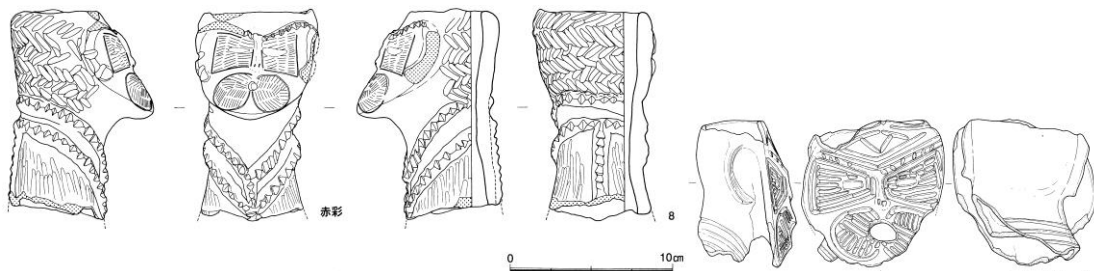
＜人面付土器 ⇒ 陽顔文: 女方顔壺＞

＜人面文土器 ⇒ 陰顔文: 北原人面文壺＞

- ・『利根川』32(2010)で「泉坂下顔壺」の真相を求めて「眉間3条作法」から接近し、今回、眼部と口部に観られる独特の入墨表現を鍵とする陽顔文の人面ネットワークを確認します。すると以下のように静岡県から愛知県にまで年代を多少違えて広く継承される風習が観られます。人面ネットワークは北の家族との関係を基盤としますが、それは馬場小室山遺跡の人面文土器の動向とも共通します。



【図1】茨城県泉坂下遺跡
(中期前葉)



【図2】静岡県角江遺跡 (中期中葉)

【図3】愛知県矢作川河床 (中期中葉)

3-2.「壺棺再葬墓」から検証する「タマきみ(君)」の価値: 宅間清公さんのチャレンジはヒスイ勾玉の流通

- ・縄文時代晩期のヒスイ等石製・土製勾玉が弥生時代になるとその価値は如何に変容するか?

上記の課題研究にて「ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点で製作)と弥生時代中期中葉「壺棺再葬墓」流通(上越周辺北信経由)の実態解明」と明記したように、流通経路がトリクルダウン方式からハブ方式へと流通地域圏の再編が認められ、そこに潜む「土器型式」に与える影響が課題です。

4.【見沼区小深作遺跡の近況】: 鴨志田隼司さんによる遺跡指定区域外パトロール報告

- ・標高11-12mの低台地に立地する加田屋川の谷奥集落。鴨志田隼司さん宅の近隣で、土地区画整理事業の道路工事関係で遺跡指定区域の現状に懸念(鴨志田さんは遺跡指定区域外から土器などを採集)連絡あり。近刊のさいたま市遺跡調査会報告書によると晩期の主体は南側、今回の発掘調査地点は北側。
- ・「小深作遺跡の遺跡指定区域外の遺物の整理が一部終わりました。5月4日にはその一部を持参致します。表採土器片は数多くはありませんが、それでも時期区分は出来そうです。最近建物を撤去した跡からは、石製品が数多く出土しております。」ということですので、採集場所の確認と土器等の同定を行います。

5.【その他】: ワイン・アーケオロジーによる情報交換会など

- (1) 晩期中葉から後葉にかけて発達する「縄文スリパチむら」の浦和区前窪遺跡発掘調査報告書が刊行!

・「大洞A1式」期初頭で「浮線文」直前の「前窪式」制定のタイプサイトで、浮線文期の有髯土偶も検出。

- (2) 弥生時代中期中葉のヒスイを訪ねる資料調査(5/20・21: 長野市塩崎遺蹟群など)

・池上遺跡の「池上式」期における「小松式」系入植混在集落形成を考察するには、その直前期の交流関係を追及し、「山草荷式」直前期における「北米プレート」境界縁辺部の動向を射程に入れる。 以上